



つなが竜

さいたま市 PR キャラクター

着ぐるみ使用マニュアル

さいたま市

1: 事前確認事項

2: 着ぐるみ内に入る人の服装

3: 着替えの手順

4: 装演時の注意点(中に入る人向け)

5: 装演時の注意点(アテンダント向け)

1:事前確認事項

着ぐるみを使用する前には、以下の点を必ず確認しておくこと

人員体制

- ・装演者は、2人で順次交替していく体制が理想。
- ・1人の場合でも基本30分程度を上限として、必ず休憩を取る。
- ・アテンダントは必ず1名以上つけ、移動やパレード時の補助を行うこと。
- ・小学生以下が集まるイベントは、アテンダントを3名つける。
- ・装演者及びアテンダントは、必ず当マニュアルを熟知しておくこと。
- ・イベントなどにおいては、演出等について司会者と十分に打合せを行うこと。
⇒ヌウは、演技中に会話や鳴き声など発声することは禁止しています。

控え室の確保

- ・控え室は、着替えることのできる十分なスペースがあり、着ぐるみを広げることのできる部屋を用意する。
 - ・外部から覗かれることがないように留意する。
- 例
- 控え室は関係者以外立ち入り禁止区域に設ける
 - 入口前にパーテーションを置き、外から控え室が見えないようにする

運搬車両等の確保

- ・着ぐるみ頭部(約100cm四方)・胴体部(約75cm四方)・足部(約60cm四方)を積載できる車両及び2人以上の運搬人員を準備する。
- ・使用の前日及び翌日の使用状況を確認し、受け渡しの調整を行う。

2: 着ぐるみ内に入る人の服装

基本の服装

■ 頭

- ・バンダナ・手ぬぐい・面下などを頭に巻く。
- ・長い髪はゴムでまとめ、手ぬぐい等で髪がたれてこないようにまとめる。
- ・ヘアピン、ピン止めなどは使用しない

■ 顔

- ・眼鏡は使用せず、裸眼かコンタクトを使用する。
- ・やむをえず眼鏡を使用するときは曇り止め、眼鏡バンドをする。

■ 体

- ・夏 上: Tシャツ
下: ジャージ、スパッツ、レギンス(足首まであるものがよい)
- ・冬 上: スウェット(トレーナー)、Tシャツ(長袖がよい)
下: ジャージ、スウェット(トレーナー)

■ 足

- ・着ぐるみ内に靴があるので、自分の足のサイズと合わせて、靴下を選ぶ。
- ・素足は滑ることを防ぐため不可とする。



※身長175センチ以内の男女が適任

注意事項

- 眼鏡・ピアス・アクセサリは外す
- 化粧は取る
- 前日の睡眠不足・二日酔いなどは厳禁
- 必ず適度なストレッチなど準備運動をする
- 夏場に限らず、水分補給を確実に行うこと
- 便意等緊急の場合に備え、アテンドへのサイン、伝達方法を決めておく
- 火気厳禁(着用したままの喫煙は厳禁)
- 雨天時の使用は避けること

<イメージ>

3: 着替えの注意事項

注意事項

着替える場所(控え室)の確保

- ・外部から絶対に見えない場所
- ・締め切りになるテント、部屋
- ・ステージ、登場ポイントに近い場所

着替える前の準備

- ・服装
→下に着る服は「2: 着ぐるみ内に入る人の服装」(2ページ)参照
- ・衣装を置くビニールシート(汚れた床や地面に直接衣装を置くことは厳禁)

装着手順の遵守

- ・別添の着ぐるみ装着手順のとおり、正しく装着すること。

移動経路の確認

- ・控え室から出演場所までの間に、段差・障害物等がないか注意する。
⇒室内の場合、天井・ドア等の高さにも注意！(ツノ破損の原因になります)



※破損したり、汚れたときは必ず貸出元へ連絡すること

4: 装演時の注意点(中に入る人向け)

装 着

- 面の視線を一定に合わせる。
⇒装着していると構造上、面が斜めになってくるため、特に振り向いたり頷いたりする際に注意する。
- 周囲への注意を怠らない。
⇒腹回り、尻尾などの近くの人・小さな子供に十分に注意する。特に、尻尾の長さは中の人の想像以上に長い。

動 き

- 動きはオーバーアクション気味に動く。
⇒着ぐるみは手足が短いので、意識的に大きく動かないと見ている側には着ぐるみの動きが小さく見える。
- 小さな子供との握手は、できるだけしゃがんで行う。
⇒子どもは大きな着ぐるみに見下ろされる感覚になり、恐怖感を感じることもある。
- 小さな子供がいる場合は、ゆっくり動く。
⇒視界が悪く、足元にいる子供が見えないので、注意が必要。また、もしぶつかった際にけがをしないよう、ゆっくり動く。
- 子どもを抱きかかえる行為は厳禁。
⇒事故につながる危険性がある。

発 声

- 演技中に会話や鳴き声など発声することは厳禁**
⇒ヌウのキャラクターイメージを壊さないため。
- 装演者の感情は表に出さない。
⇒不都合な事態はアテンダントに対応してもらう。
- アテンダントとの間に「緊急事態」「トイレ」「もう我慢できない」などを知らせるサインを決めておく。
⇒周囲の方から殴る、蹴るなどの行為を受けた際もアテンドへのサインで対処する。

移 動

- 進行スピード、進行方向についてはアテンダントの指示に必ず従う(特に階段は注意する)
⇒着ぐるみのサイズが大きく、視界が狭いため、目の届かない部分はアテンダントの指示により把握する。
- 走る行為は厳禁。
⇒事故につながる可能性がある。

環 境

- 必ず、一定の時間を守り装演する。基本は30分ごとに1度休憩をとること。無理・無茶な行動は絶対にしない。
⇒炎天下での装演は時間を調節し、水分の補給は必ず行う(アイソニック飲料が有効)。保冷剤での体の冷却も効果的。
⇒春・秋期でも**着ぐるみの中はかなり蒸し暑くなる**ので、決して油断をしないで下さい。(熱中症の危険があります)
- 火気のそばには引火の危険があるので絶対近寄らない。⇒着用したままの喫煙は厳禁。
- 雨天・雪の日には屋外に出さない。
⇒着ぐるみの足は大変滑りやすいので、転倒する危険や修復不可能な汚れになる場合がある。

※装演中に破損したときは、直ちに使用を中止する。

5: 装演時の注意点(アテンダント向け)

位置

- 着ぐるみとは「付かず離れず」を心がけ、何かの時には、すぐ対応できる距離にいる。
- 必ず着ぐるみの斜め前あたりから先導し、必要なときは手を引いて着ぐるみの歩行を補助する(階段・段差など)。
⇒進行方向や人、障害物の存在を確認し、装演者に伝えるため。子どもなどの突進は必ず止める。
- アテンダントが2人以上つく場合前後に分かれる。
⇒後方のアテンダントは、尻尾を触ろうとする人への注意を促す。着ぐるみが振り返るとき等、後方は危険。

声かけ

- ポイントでは必ず状況を装演者へ知らせてあげる。
- 握手・写真撮影は必ず正面からヌウにオーダーするよう、ゲストにはアナウンスをする。
⇒声かけは、親しげに、装演者にではなく、ヌウへの声かけとして行う。
例:「ヌウ、お友達が握手したいそうですよ」、「ヌウ、前に階段があるから気をつけてね」
- 控え室外で、装演者と無駄話をしない。

対応

- 周囲の状態に絶えず気を配る。
⇒装演者は周囲がほとんど見えないので、声かけにより周囲の状況を知らせてあげる。
- 装演者の様子に気を配り、無理をさせないようにする。
⇒出演時間はあらかじめ決めておき、時間管理の上、切り上げるタイミングも考えておく。延長は避ける。
- 着ぐるみの尻尾と腹回りに集まる子供には特に注意する。
⇒装演者の視界には子どもが入っていないことが多い。
- 着ぐるみに危害を加える人には、毅然とした態度でハッキリとお断りをする。
- ギャラリーの「入ってるの、男?女?」の質問への答えは「ヌウはヌウですよ」とにこやかに一言だけ答える。
- 握手や写真撮影の際、人の整理を行う。
- 「抱きかかえてほしい」との要望は明るくお断りする。
⇒「手が滑るんです」など造作的な理由は言わず「ヌウは抱っこできないので」と説得する。